



「CS教師は協力者」

登戸教会牧師 松原 洋満

私たちは、今まで2回にわたって、CS教師は、「召された者」であり、「礼拝者」であることを学んできました。今回は、CS教師は、「協力者」であることをごいっしょに考えてみましょう。

皆さんは、職場や学校のクラスが変わった時に、何が1番気になりますか。それは、誰といっしょに仕事をするか、誰といっしょに勉強や部活をするかということではないでしょうか。CS教師にとっても、誰といっしょに奉仕をするのかはとても重要なことです。

1. 神と共に

聖書は、まことの教育者をご聖霊であると明確に教えています。真理の御霊は、神の真理を明らかにし、人の心に適用してください（ヨハネ16章13節）。

そして感謝なことに、神様はCS教師をご聖霊のパートナーとして選び、用いてくださるのです。

パウロはこう語っています。「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。…私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です」（第1コリント3章6節、9節,）。

このことから教えられるのは、CS教師は神に仕える者であって、神のご意思に従う者であることです。神があなたの教会に、CSに、生徒たちに、CS教師に望んでおられることを、いつも祈り求めましょう。今までのプログラムをただ維持すること以上に、神が望まれていることを真剣に祈り求め、実現していくことが大切です。

2. 生徒と共に

多くの場合、CS教師が、生徒よりも聖書をよく知っていたり、経験も豊富なことは当然です。だからといって、生徒を自分たちよりも下に見たり、一方的に教えられる者として接することは間違いです。

主イエスは言われました。「人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のために、贖いの代価として、自分のいのちを与

えるためであるのと同じです」(マタイ20章28節)。

現在、世界中で「教育→学習」という巨大な変化が進行中です。一方的に教え込むことでは、人はほとんど変わらないという反省に基づいて、共に学ぶ「学習共同体づくり」が強調されています。

神の視点と心をいただいて、生徒と共にCSを造っていきましょう。神がこの子をどれほど愛してくださっているのか、この子に何を望まれているのか、この子の内にどんな可能性を与えておられるのか。人の目だけで見ていると、問題ばかりが目につき、疲れ果ててしまうこともあるでしょう。主イエスが私にしてくださった原点を忘れないでいきましょう。

3. 教師仲間と共に

CSの働きは、牧師の理解のもと、教会全体の祈りと協力がなくてはできません。それほど教会にとって大切な働きです。

教師が孤立していると、霊肉共に疲れてきて、よい奉仕はできなくなります。

教会には、「みな益となるために、おのおのに御霊の現れが与えられているのです」(第1コリント12章7節)。教師仲間の賜物を活かし合い、共に励ましあい、助け合い、高め合っていきましょう。

ディスカッションガイド

①あなたが神と共に働くために、具体的に気をつけるべきことは何でしょうか？感謝なことは何でしょうか？

②あなたが仕えているCSを、さらに「生徒と共に」作っていくためには、どうしたらよいでしょうか？

③教師仲間をさらに活かし合うためには、どうしたらよいでしょうか？